

# 隨泉寺寺報

平成18年(2006年) 6月号 第430号

TEL 082-892-0217 <http://www.ttec.co.jp/~zuisenji/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

前期門信徒講座

講師 西法寺住職 吉崎哲真師

講題 『縁起』

『道のべの 蛍ばかりを するべにて

独りぞ出づる 夕やみの空』 唯心房寂然

【通釈】今はただ、道のほりを飛ぶ蛍の光のような縁覚界だけを案内役として、まだ菩薩乗の月があらわれない夕闇の空の下へ、独り修行に邁進するのだ。【語釈】◇小乗の人の智は空しく、菩薩の智を月光とすれば蛍の光の如くである、の意。◇昔、この瀬野川にもたくさん蛍がいたことでしょう。今はめったに見ることが出来ません。子供の頃にほたるがりに行くのが初夏の楽しみのひとつでした。ほうきとほたるかごをもって。もっとも蛍をとりながら、歩いて行って、その先にあるお店でアイスクャンディを買ってもらうのが一番の楽しみでしたが。私の実家の前は田んぼばかりでした。ですから蛍は明るいくらい飛び交っていました。蛍のひかりは、ほの暗く、ついたり消えたりしてとても頼りないものです。とうてい暗い道を照らしてくれるようなものではありません。私の智慧はとうていあたりを照らすというようなものではなく、心もとないものなのでしょう。

## 6月の法座予定

6月11日……………掃除 井原

6月14日昼席午後1時より……………前期門信徒法座

6月14日夜席午後7時半より……………出張法座 井原集会所

6月15日朝席午前10時より……………お父さんの集い

6月15日昼席午後1時より……………前期門信徒法座

7月2日午後6時より……………門信徒会本部役員会

## ☆おとうさんの集い 6月15日(木) 午前10時～

この頃お寺にお参りしてくださる人の中に、男の人の姿がめっきり少なくなっていました。決まった人がいつも3～4名です。男の人は恥ずかしがりやで、シャイですから、一人ではなかなか本堂に入りづらいのでしょうか。6月の第3日曜日は父の日です。そこでお父さんにお寺に参ってもらう日を作りました。《赤信号みんなで渡ればこわくない。》お寺の門もみんなでくぐれば怖くないです。誘い合わせて、たくさんお寺の門をくぐってください。役員さんと相談したら「それだけでは来んで。いっぱい飲むというのでさそわにゃ」ということで一杯出すことにしました。つられて参ってください。お母さん方も一緒に参ってください。また私は子供いないので、お父さんではないと言われる人もあると思います。【お父さん】とは男の人という意味です。男の人の集いでは女の人が参りにくいので「お父さんの集い」にしました。女の人もどうぞお参り下さい。



## ☆初参式がありました。

5月14日に平成18年度の初参式を執り行いました。田村 愛里さん・大久保 波青君おめでとうございます。親子にとって人生におけるお念仏との新たな出遇いです。どうぞお念仏のかおる環境の中で小さいのちが育つよう願います。



## ☆ありがとうございました。

山門前の石段の横に、隨泉寺の掲示板を寄付していただきました。今までお寺の門前に掲示するところが無かったので、これから折につけて、掲示して行きたいと思います。



## ☆永代経懇志

永代経懇志	金 拾萬円	住田 竜麿殿	故 住田 佳代子様
永代経懇志	金 拾萬円	井上 正夫殿	故 井上 明江様
永代経懇志	金 貳拾萬円	岡田 千津子殿	故 岡田 弘登様

## ☆香典返しにかえて

門信徒会へ	金 一封	住田 竜麿殿	故 住田 佳代子様
	金 一封	井上 正夫殿	故 井上 明江様
	金 一封	岡田 千津子殿	故 岡田 弘登様

## 尊いものを仰ぎ

## 美しいものに感動する心を

美しい話を聞かせたり、美しい絵を見せたり、美しいメロディにふれさせたり、芸事を習わせたりして、子どもの心情・情操を美しく育てることは大いに必要なことです。



しかし、子どもを育てる道には、偏りがあってはなりません。恐ろしい事件を惹きおこした過激派の若者たちは知的偏りの中であのように育てられたと聞いています。

自転車の車輪を直接ささえている道はばは、せいぜい三センチくらいのものでしょう。

では、はば三センチしかない道を自転車で無理に走れば、必ずわが身を破滅させることになるでしょう。

美しい心情を育てるにしても、すぐれた賢さを育てるにしても、ほんとうのものを育てるためには、狭い三センチの道にとらわれていないで、それをささえるはば広い生活の耕やしを忘れてはなりません。実際生活の中で、計画させたり、結果を予測させたり、失敗したときの原因を考えさせたり、生き方そのものを確かな偏りのないものに育てるなかで、尊いものを仰いだり、美しいものに感動したりすることのできる、豊かな心情を育てることを念じようではありませんか。

### お母ちゃんへ

今まで産んで育ててくれてありがとう。お母ちゃんのおかげでこの世に命をさずかり、そしていま、私は 家庭をもっています。幸せにいらしていただけるのも、お父ちゃん、お母ちゃんのおかげです。私が今までで よくおぼえているのは、まだ 45 才の頃。熱があつて家で休んでたぼかぼかのあつたかい日の昼下がり。お母ちゃんはアイロンがけしてて、私は横でのんびりしてて、とても幸せな光景。そして、小学校の帰り道、急な雨で傘もなく濡れて帰ってたら、お母ちゃんが傘を持って迎えに来てくれたこと。

まだまだ たくさんあつて、私が成長するにつれて、思い出は、けんかしたことの方が多くなってしまふけど、今となつては、それも お母ちゃんという 2 人としていない、大きな存在です。

病気になってからは、会話することもできなくなったけど私は大きなプレゼントをもらったような気がするよ。お父ちゃんのお母ちゃんへの愛はほほえましくて、私は、見てて、とてもうれしかったよ。

時々しか、私は少ししか手伝いに行けなかったけど、幸せな気分だったよ。

入院してからも そのうなづきは続いたね。じっと目を見ながらだったね。私は、お母ちゃんに「ありがとう」って言いたくてある日お見舞に行った時、お母ちゃんの今までの人生に敬意を払い、そして私を産んで育ててくれた感謝をそつと話したら、涙してくれたね。わかったのかな。うれしかったのかな。

そして、お母ちゃんから最後で最大のプレゼントは、この世の旅立ちだったね。まさに身をもって、子や孫たちに、人の最後を示してくれたね。その時、お母ちゃん「すごい！」って思った。厳かな旅立ちだったよ。子は親に、誕生という最高のプレゼントをして、親は子に死という最大のプレゼントをするんだって思った。その時から、お母ちゃんは、いつも私のそばにいてくれる。私たち家族や、みんなを見守ってくれている。そして、私も素直に「お母ちゃん」って話しかけられるよ。

平成 18 年 5 月

釋安養 井上 明江 18 年 3 月 16 日往生 73 歳

井上明江 次女 森本 正江



### 花のたましい 金子 みすず

散ったお花のたましいはみ仏様の花園に、  
ひとつ残らず生まれるの  
だってお花は優しくて  
おてんとう様が呼ぶときに、ぱっと開いて、微笑んで  
蝶々に甘い蜜をやり  
人には匂いを皆くれて  
風がおいでと呼ぶ時に、やはり素直についていき  
なきがらさえも、  
ママゴトのご飯となってくれるから